

# 大畑麓地区（人吉市）

## 次世代へつなげる農業づくり

## ～支え合い、助け合う心つながる集落・農場～

キーワード

農業機械の導入

農地の集積

露地野菜



ビジョン策定年度：令和元年度 目標年度：令和3年度

# 1. 課題と将来像・ビジョンの内容

## 地区の「課題と将来像」

### 【地区の課題】

- ・高齢化による担い手不足。集落機能の低下で集落の存続が危ぶまれる状況。
- ・高齢化で畦畔の管理ができない農業者が増加。多くの畦畔を大畑麓町集落協定推進の会で管理。
- ・費用負担の面から老朽化した農業機械の更新が困難。
- ・鳥獣被害対策は地域全体をカバーできない。



### 【地区の目指す姿】 = **ビジョン**

- (1) 基盤整備で作付けを拡大
- (2) 機械と新規作物の導入で農家所得を向上
- (3) 地区内外から後継者を確保



### 【成果目標】

- ・水稲などの効率的な栽培の実施。
- ・ズッキーニの作付け面積を14a増加させる。
- ・たまねぎの作付け面積を15a増加させる。



## ビジョンの内容

### (1) 基盤整備で作付けを拡大

- ①残された未整備区画の整理・拡大を進める。

### (2) 機械と新規作物の導入で農家所得を向上

- ①農業機械の導入で品質向上と効率化を実現。
- ②くず米の有効活用。
- ③ズッキーニとサラダたまねぎの栽培。
- ④サラダたまねぎり代替作物としてじゃがいもの作付け。

### (3) 地区内外から後継者を確保

- ①担い手の育成・確保を図る。
- ②即応予備自衛官を担い手とすることを検討。

## 整備・導入内容

令和2年度	色彩選別機、コンプレッサー、荷受けホッパ、石抜き機、縦型米選別機、草刈り機（スパイダーモア2台、ウイングモア1台）、粃クリーナー
令和3年度	サイバーハロー、フォークリフト、オフセットシュレッダー、白米計量器

## 2. 大畑麓地区の現状

### 【農業者に関する状況】

・総戸数	75戸	令和3年住民台帳
・総人口	170人	令和3年住民台帳
・農家戸数	21戸	令和3年大畑麓集落協定名簿
・農業者数	21人	令和3年大畑麓集落協定名簿
・担い手数	4人	令和3年大畑麓集落協定名簿
・65歳以上の就農者数	13人	令和3年大畑麓集落協定名簿

### 【農地に関する状況】

(1) 面積区分		
・水田	26.35ha	令和3年農地台帳
・畑（樹園地除く）	4.4ha	令和3年農地台帳
(2) 筆数		
・水田	286筆	令和3年農地台帳
・畑（樹園地除く）	90筆	令和3年農地台帳
(3) 作付区分		
・水田	水稻、飼料作物、麦、じゃがいも	
・畑（樹園地除く）	飼料作物、露地栽培	
(4) 耕作放棄地		
	あり	

### 【基盤整備に関する状況】

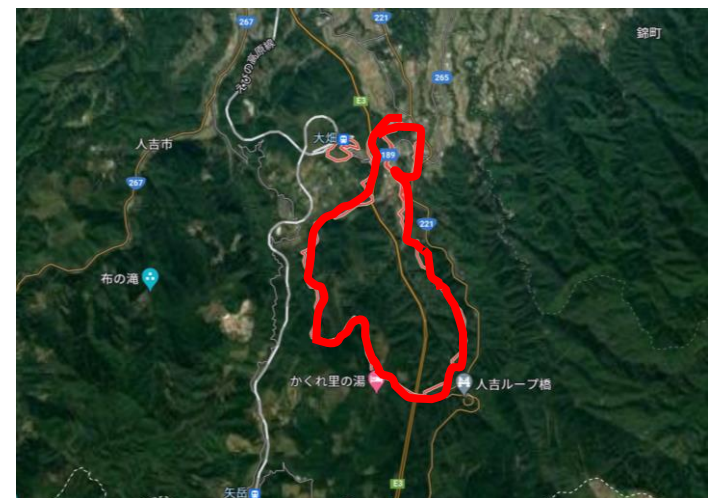
(1) 耕作道路	幅員が2.0m未満、簡易舗装
(2) 排水	土水路
(3) 用水	水路から直接取水

### ■ 地区の現状

- ・地区の農業従事者は**65歳以上が約80%**。畦畔の管理が困難。
- ・地区内の農家21戸のうち担い手がいるのは4戸。人口減少で**集落の存在が危ぶまれる状況**。
- ・主要作物である**水稻の収量が少ない**。
- ・1区画当たりの面積が狭く、**大型機械が入らないほ場**が多い。
- ・**共同で農地の保全**に取り組んでいる。
- ・**農事組合法人で農地集積や作業受託**に取り組んでいる。



農地集積加速化事業 平成28年度指定地域



### (1) ビジョン策定に至ったきっかけ

大畑麓地区は担い手が少なく、機能低下で**集落自体の存在が危ぶまれる**状況。傾斜地が多く、水路や道路などの農業環境も整っていない。当然、水稻の収量も少ない。厳しい現状だが、農地を守りたいという思いは根強い。

一方、地区の**土地の約8割は「農事組合法人おこぼ」や担い手がいる農家が所有**。そのため合意を得やすく、ビジョンに取り組みやすい環境にあった。

### (2) ビジョン策定メンバーと手法

#### 【メンバー】

水稻、飼料作物、露地野菜を栽培する大畑麓町集落協定推進の会のメンバー26人。全員が「農事組合法人おこぼ」に所属。

#### 【手法】

全員参加の集会を重ねて合意を取り付けた。

### (3) ビジョン策定の流れ

#### 目標を立てる

組合員の賃金が払える程度の収益でいいから、新規作物を導入して経済効果を目指す。

#### 具体策を練る

比較的手間がいらないたまねぎ、収穫期間が長いズッキーニを栽培する。併せて、土壌分析を踏まえた肥料の散布を行い、品質向上を図る。

#### 実現可能な道筋をつける

地区の合意が得やすく、労働力や機械などの面からスムーズに実現できる法人での対応を計画。

#### 合意形成と最終調整

「農事組合法人おこぼ」が栽培を担当。組合員が協力して作業を行う。



令和元年9月2日に大畑麓公民館で開かれた事業説明会

### ■ビジョン検討の流れ

回	実施日	話し合いの具体的な内容	参加人数
1	令和1.9.2	・ 県、町から事業概要についての説明	13人
2	令和1.9.12	・ 県、市から機械の導入や資金面などのついで具体的な説明 ⇒ 「農事組合法人おこば」の事務所、倉庫の現地確認	7人
3	令和1.10.8	・ 人吉球磨地域全域の現況報告に参加	12人
4	令和1.12.17	・ 導入する機械の機種選定など、ビジョン策定の具体的な協議	8人
5	令和2.1.20	・ 構成員へのビジョン策定の最終報告と確認	19人

※上記以外に「農事組合法人おこば」の組合員らが、導入する機械についての話し合いを2回開催。

令和元年12月17日、「農事組合法人おこば」事務所での会議がターニングポイントになった



### (4) ターニングポイント

導入する機械の機種選定は、地区が進める事業を左右する重要事項。組合の役員ら中心メンバーで慎重な検討を重ねた。

### (5) 重点ポイント

**農業機械の導入** が不可欠

傾斜地が多く、排水路などの整備が不十分な同地区では、農業機械が重要な役割を担う。しかし費用負担の面から老朽化した機械の更新は難しい。したがって、**新しい機械の導入は地区の農業を守るうえで重要な意味**を持つ。

## ビジョン（1）基盤整備で作付けを拡大

①残された **未整備区画の整理・拡大** を進める。**土地の約8割は法人などで所有**

大畑麓地区は昭和59年度～平成3年度に県営南人吉地区甫場整備事業で整備された区域だが、当時、未整備のエリアが残った。

そこで**令和5年度～10年度（予定）に県営農業競争力強化農地整備事業で区域の整理・拡大を進める**ことになり、現在、さらなる農地の集積を進めている。作業効率の向上を図り、作付面積の拡大で農家の所得向上につなげるのが狙い。

通常、農地の集積が進まないと事業も進まないが、大畑麓地区の農地の約8割は「農事組合法人おこぼ」や担い手がいる農家が所有しているため、ほかの地区に比べて**農地の集積は比較的進んでいる**。今後は合意を取り付けながら事業を進めていく計画。

同時に**農地中間管理機構を活用した担い手への農地集積をさらに進め**、農作業の効率化につなげる必要がある。



「農事組合法人おこぼ」が所有する地区内の農地。ほかの地区に比べると比較的整備が進んでいる。



「農事組合法人おこぼ」は機械類を収容する倉庫を大畑営農生産組合から借り受けているが、現在の倉庫の裏手に第2倉庫を令和4年度中に建設する計画だ。写真は建設予定地

## ビジョン（2）機械と新規作物の導入で農家所得を向上

## ① 農業機械の導入 で品質向上と効率化を実現。

## 規模拡大と受託事業の取り組みも促進

令和2年7月の豪雨による冠水被害、害虫被害で米は収量・売上高ともに減少した。

令和2年度には、生産条件向上のため、畦畔管理用の草刈り機を3台（スパイダーモア2台、ウイングモア1台）導入した。ただし操作経験を積む必要がある機械が1台あり、高齢者は傾斜地での作業が難しいので、オペレーターの固定化を検討する必要がある。

令和3年度から色選別機、石抜機、もみクリーナー、コンプレッサー、縦型米選機が本格的に稼働。米の品質向上やWCS用稲の生産効率化に寄与した。機械の共同利用による生産経費の軽減、作業の効率化・省力化も見逃せない。これらの機械は「**農事組合法人おこぼ**」が**規模の拡大を目指し、農作業受託の取り組みを促進するうえでも欠かせない。**

## ② ぐず米を有効活用。

## みそに加工して構成員などに販売

機械の導入はぐず米の有効活用を実現した。ぐず米に混じった稗などを機械で除去し、みそ用米にしてJAくまに加工を依頼。でき上がったみそ製品は構成員宅1軒に付きに3～4kgを有償で配り、構成員以外には「農事組合法人おこぼ」を通して販売している。量が少ないので店頭販売などは行っていないが、将来は加工工場の建設を視野に入れている。



装着タイプの草刈り機  
オフセットシュレッダー



令和3年度に購入したフォークリフト

## ビジョン（2）機械と新規作物の導入で農家所得を向上

## ③ズッキーニとサラダたまねぎを栽培。

## いずれも継続が困難に

ズッキーニは収穫期間が長いという点に比較的単価が良いが、人件費がかさむのが難点。令和3年度は栽培中だが同4年度以降は未定。サラダたまねぎは病気にかかりやすく貯蔵がきかない。しかも競合が多いので同3年度から栽培を断念した。これらの代替作物としてじゃがいも、甘長とうがらし、ミシマサイコが浮上した。

なお高単価作物の作付にあたっては、環境条件が厳しいため、当初、土壌分析による肥料の散布を計画していたが、費用の面で実現しなかった。



法人で所有する地区内の畑。約25aの広さにじゃがいもを作付けしている。令和3年12月撮影

## ④代替作物としてじゃがいもを作付け。

## 甘長とうがらしとミシマサイコも検討

じゃがいもの令和2年度の作付面積は20a。人吉市内の小中学校に学校給食を提供する給食センターと契約して同2年度に1～1.5tを出荷した。ところが同3年度は出荷量が1t以下に。そこで直売所の設置を検討したが、人員の配置ができずに断念。道の駅人吉にも交渉したが、商品の補充管理や冷蔵設備、手数料などの点で難航している。現在、青果物を取り扱う熊本市の会社と交渉中で、契約がまとまれば年間4～5tの出荷が見込まれる。

甘長とうがらしとミシマサイコの栽培は、「農事組合法人おこぼ」が所有する協定農用地外（モデル地区外）で同2年度から取り組んでいる。

甘長とうがらしはJAくまが栽培を指導。漢方などに用いられる薬用作物ミシマサイコは「あさぎり薬草合同会社」に出荷している。いずれも収穫は安定、賃金分の収益は上がるので、同4年度から協定農用地（モデル地区内）での栽培を検討中。特にミシマサイコは人吉球磨全域で取り組みが進められているので、高単価作物として新規就農者にも呼び掛けを考えている。



## ビジョン（3）地区内外から後継者を確保

### ①担い手の育成・確保を図る。

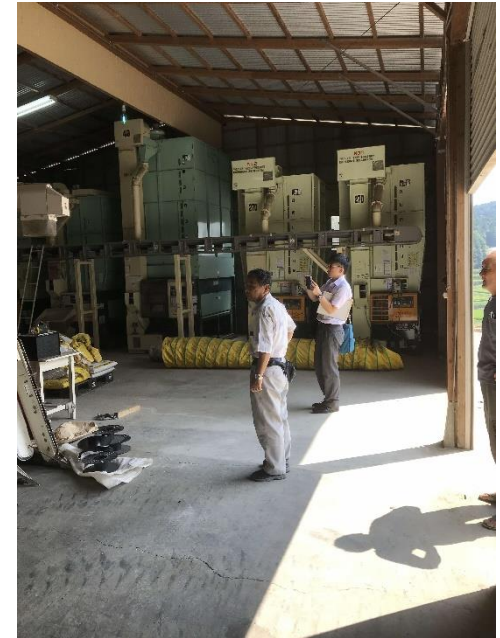
#### 法人の構成員は年々減少

モデル地区には兼業農家が多く、土地利用型作物である米作りを主にしている。「農事組合法人おこば」は農業経営の安定と効率化などを目的に平成29年に設立。設立当初約26人だった構成員は、高齢化などで令和3年現在21人と減少傾向が続いている。法人は大畑麓地区の主要な担い手だけに、**地区内外から担い手の育成・確保を急いで図らなければならない。**

令和元年9月12日の現地確認。右奥の建物に「農事組合法人おこば」の事務所がある



令和元年9月12日、「農事組合法人おこば」の倉庫の現地確認が行われた



### ②即応予備自衛官を担い手とすること検討。

#### 法人の収益増につなげる妙案

対策の一つとして即応予備自衛官を対象にした募集が考えられる（主に定年退職した元自衛官）。予備自衛官には、農作業を行う上で求められる特殊免許の取得者が多く、即応予備自衛官を雇用した企業には給付金として1人につき年額51万円が支給される。担い手が確保できるだけでなく、法人の収益向上にもつながり、地域の空き家対策に貢献できるかもしれない。まだ案の段階だが検討に値する。

## 振り返り・成果・今後に向けて

## (1) 振り返り（ビジョン策定と取り組みの総括）

【取り組みが継続するためのポイント①  
～ビジョン策定時】

**着実に少しずつ  
ビジョンを策定する**

【取り組みが継続するためのポイント②  
～取り組みの総括】

**資金、施策、情報の  
3本柱が不可欠**

## (2) 成果

## 【成果目標】

- ・ 水稻などの効率的な栽培の実施。
- ・ ズッキーニの作付け面積を14a増加する。
- ・ サラダたまねぎの作付け面積を15a増加する。

## 【結果】

- ・ 機械導入が米の品質向上と栽培効率化に寄与。
- ・ ズッキーニは人件費がかさむため栽培は未定。代替作物としてじゃがいもの栽培を開始。
- ・ サラダたまねぎは栽培を断念。代替作物として甘長とうがらし、ミシマサイコを検討。

## 【メンバーの声】

**若い力を呼び込むメッセージを出し続ける**

事業を展開するには労働力の確保が重要であることをあらためて認識した。農業が「きつい、きたない、きけん」の3Kではないというメッセージを出し続け、若い力を呼び込みたい。

## (3) 今後に向けて

**土地集約型から土地利用型・施設園芸型に移行して労働力の確保を目指す**

農地の集積を進め、これまでの土地集約型から土地利用型、施設園芸型に移行し、年間を通して収益の上がる構造を作り出すことで、新しい労働力確保につなげる。